

高田農業高等学校 第2学年 普通教科 シラバス

科目名を選択すると、該当科目のシラバスを閲覧できます。

国語（言語文化）

地理歴史（地理総合）

数学（数学Ⅰ）

理科（化学基礎）

理科（生物基礎）

英語（英語コミュニケーションⅡ）

保健体育（体育）

保健体育（保健）

家庭（家庭総合）

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（全学科）
使用教科書	第一学習社『高等学校 標準言語文化』				
副教材等	数研出版『プレミアムカラー国語便覧』、浜島書店『常用漢字の1・2トライ』 尚文出版『国語必携パーフェクト演習』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創作的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探究し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 - (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- 進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、
- ①基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得と、文章を的確に理解し自分の考え方を確立させることを目指します。
 - ②更にそれらを的確に表現し、積極的に考察を深める態度を育てます。
 - ③自身の考えを的確に表現するための文章能力を養います。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を持とうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、図やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	小説を読む (一)	2 「C 読むこと」	「とんかつ」	・謎の母子の登場に始まる話の構成と展開を理解し、せりふや行動から人物像と心情を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。	2	授業態度 ワークシート 活動の様子 定期考査
	古文入門	2 「C 読むこと」	「古文を読むために1」 「児のそら寝」	・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	2	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
5	漢文入門	3 「B 書くこと」	「漢文を読むために1」 「訓読に親しむ(一)」 「漢文を読むために2」 「訓読に親しむ(二)」 「漢文を読むために3」 「訓読に親しむ(三)」	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 ・故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、文章にまとめる。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	詩の楽しみ	2 「C 読むこと」	「道程」 「小景異情」 「二十億光年の孤独」	・近代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・近代詩の表現の技法とその効果について理解する。 ・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・詩の展開や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取ろうとしている。	2	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	定期テスト				1	
	小説を読む (一)	4 「C 読むこと」	「よろこびの歌」	・「私」と周囲との意識のずれが何から生じているのかを捉えながら、「私」の心情の動きを読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。	4	授業態度 活動の様子 発表・報告 ワークシート 定期考査
6	古文入門	4 「C 読むこと」	「古文をよむために2」 「三文にて歯二つ」	・主として品詞の種類について、文語のきまりを理解する。 ・古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査

	故事成語	4 「C 読むこと」	「五十歩百歩」 「矛盾」 「蛇足」	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	短歌と俳句	2 「B 書くこと」	「清水へ」	・我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化に特徴的な、短歌の表現の技法とその効果について理解する。 ・短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。 ・これまでの学習をふまえ、短歌を読む。	2	授業態度 発問評価 ワークシート 短歌の提出 定期考査
7	定期テスト				1	
	小説を読む (二)	3 「C 読むこと」	「羅生門」	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	古文に親しむ	4 「C 読むこと」	「古文を読むために3」 「なよ竹のかぐや姫」 「絵仏師良秀」	・主として動詞の活用について、文語のきまりを理解する。 ・現代まで受け継がれる物語の読み取りを通して、古文の世界への親しみを深める。 ・作り物語、説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
8 9	古文に親しむ	1 「B 書くこと」	「古典から受け継がれる話の由来を調べる」	・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・課題に応じて調査する。 ・言語文化の継承に関心と自覚をもち、粘り強く話の由来について調べ、まとめようとしている。	1	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査

		漢詩の鑑賞	4 「C 読むこと」	「漢詩のきまり」 「唐詩の世界」 「日本の漢詩」	・漢詩のきまりを理解する。 ・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・日本の各時代によまれた漢詩を鑑賞し、人への思いがどのように表現されているかを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・我が国の文化に漢詩が浸透していたことに興味を持ち、中国の文化との関係に理解を深めている。	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
		小説を読む (三)	4 「C 読むこと」	「夢十夜」	・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・「夢」という設定の中での判断やその根拠を捉え、内容及び作品世界を解釈しようとしている	4	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
		定期テスト				1	
	10	随筆を読む (一)	3 「C 読むこと」	「枕草子」	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・主として形容詞・形容動詞の活用と助動詞について、文語のきまりを理解する。 ・「春は、あけぼの」「うつくしきもの」では、時間の経過による言葉の変化について理解する。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
		史伝を読む	5 「C 読むこと」	「鶏口牛後」 「完璧」	・戦国時代を背景とした各国の状況を知るとともに、蘇秦の言葉が諸侯を動かした理由を理解する。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・課題に応じて調査する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「鶏口牛後」「合従連衡」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・積極的に史伝を読み、戦国時代の遊説家の説得術を解釈しようとしている。	5	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査

11	短歌と俳句	2 「B 書くこと」	「手鞠歌」	・我が国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化に特徴的な、俳句の表現の技法とその効果について理解する。 ・俳句の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって俳句文芸に親しもうとしている。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。 ・学んだことを踏まえ、俳句を作る。	2	授業態度 発問評価 ワークシート 俳句の提出 定期考査
	歌物語を読む	3 「C 読むこと」	「古文を読むために4」 「伊勢物語」	・主として助動詞について、文語のきまりを理解する。 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「東下り」では課題に応じて調査する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	定期テスト				1	
	史伝を読む	3 「C 読むこと」	「先従隗始」 「歴史の窓」	・戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「先従隗始」の由来と現代の意味の違いを知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	伝統と文化	4 「C 読むこと」	「祭りの笛」	・我が国の伝統行事について書かれた文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・「言語活動」への見通しをもって随筆を読み、我が国の伝統行事についてもものの見方を深めようとしている。	4	授業態度 活動の様子 発表・報告 ワークシート 定期考査
	伝統と文化	1 「B 書くこと」	「『祭り』をテーマに随筆を書く」	・我が国の伝統文化に関する題材を選んで、随筆に書き表す。 ・伝統文化に関して積極的に題材を集め、集めた題材のよさや味わいを吟味しようとしている。 ・「祭りの笛」を振り返り、構成や表現に工夫を凝らして随筆を書こうとしている。	1	授業態度 調査とまとめ ワークシートの提出 随筆の提出 定期考査
	随筆を読む (二)	3 「C 読むこと」	「徒然草」	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・主張と論拠、個別と一般化、情報と情報の関係を理解し、論理の展開を分析する。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を活かして要旨をまとめる。	3	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
2						

3	中国の思想	2 「C 読むこと」	「論語」	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・孔子のエピソードを調べて文章にまとめる課題に応じて調査する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	2	授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査
	定期テスト				1	

計 70時間 (50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 0 時間	B「書くこと」 9 時間	C「読むこと」 56 時間
-----------------	----------------------	-----------------	------------------

(定期考査 5時間)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(副教材など)
- ・ 長期休業中の課題は定期テストの範囲に含まれます。

8 担当者からの一言

「言語文化」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「言語文化」で学ぶことは、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に読んだり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう！

(担当： 新井 久美子、澤田 正夫)

教科(科目)	地理歴史（地理総合）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	帝国書院「高等学校 新地理総合」 帝国書院「新詳高等地図」				
副教材等	第一学習社「最新地理図表 GEO」 帝国書院「高等学校 新地理総合ノート」				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組み地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。

- 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。
- よりよい社会の実現を目指し、様々な課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- ① 地理に関わる諸事象について、その特徴や背景などを正しく理解することを目指します。
- ② グローバルな視座と地域的な視座から、地理的な諸課題への対応を考察します。
- ③ さらにそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて考察し説明したり議論したりする力を身につけている。	よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、考察や理解を通して涵養される日本国民として我が国の国土を理解するとともに、世界の様な生活文化を尊重することを大切にしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習プリントの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習プリントの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言の観察 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の文 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム		1 節 地球上の位置と時差 2 節 地図の役割と種類	・緯度の違いや時差は私たちの生活にどのような影響を与えているのか ・主題図と一般図には、どのような表現方法や用途があるのか ・統計地図には、どのような種類があり、どのように使い分けられているのか ・地理情報システム(GIS)は、どのように活用されているのか	2 5	1学期中間考査 学習プリント 振り返りシート
5	第2章 結び付きを深める現代世界		1 節 現代世界の国家と領域	・国家の領域には、どのような決まりがあるか ・日本の位置や領域、領土をめぐる問題には、どのような特徴があるのか	2	
			2 節 グローバル化する世界	・世界の国々の結びつきには、どのような特徴や課題があるのか ・交通網の発達、通信網の発達により、私たちの生活をどのように変化しているのか	5	1学期期末考査 学習プリント 授業ノート 振り返りシート
6 7	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解		序説 生活文化の多様性 1 節 世界の地形と人々の生活	・世界各地の多様な生活文化を考察するには、どのような方法があるのか ・大地形は、人々の生活とどのように関わっているのか ・変動帯、安定地域の地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・河川や海岸が作る地形など、地形は人々の生活にどのような影響を与えているのか	2 6	
			2 節 世界の気候と人々の生活	・気温や降水、風は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・植生は気候とどのように関わっているのか ・熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の気候は、人々の生活とどのように関わっているのか	9	2学期中間考査 学習プリント 振り返りシート

	8 9			4節 歴史的背景と人々の生活	・様々な歴史的背景は、人々の生活にどのような影響を与えてきたのか ・ラテンアメリカでは、どのような文化が形成されたのか ・サハラ以南アフリカでは、どのような文化が形成されたのか ・ロシアの国家体制の変化は、人々の生活にどのような影響を与えたのか	4	
	10	第2章 地球的課題と国際協力		5節 世界の産業と人々の生活	・農業、工業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・産業のグローバル化は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・アメリカ合衆国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・地球的課題の解決に向けて、どのような取り組みが行われているのか ・地球環境問題には、どのような種類があり、どのような原因で発生するのか	5	2 学期期末考査 学習プリント 授業ノート 振り返りシート
			1節 複雑に絡み合う地球的課題		3		
	11			2節 地球環境問題	・地球温暖化はなぜ起こり、環境にどのような影響を及ぼすのか	1	学年末考査 学習プリント 授業ノート 振り返りシート
			3節 資源エネルギー問題	・エネルギー資源や鉱山資源は、どのように利用され、どのような課題があるのか	3		
			4節 人口問題	・世界の人口分布や人口増加には、どのような傾向があるのか ・人口問題への取り組みはインドとフランスでどのように異なるのか	3		
	12			5節 食料問題	・食糧問題への取り組みは、地域によってどのような違いがあるのか	2	
			6節 都市・住居問題	・世界の都市の発達や大都市の分布には、どのような傾向があるのか ・都市、住居問題への取り組みは、メキシコとポーランドでどのように異なるのか	3		
	1	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災		1節 日本の自然環境	・日本の地形にはどのような特徴があり、どのようにして形成されたのか ・日本の気候にはどのような特徴があり、地域差はどのように生じているのか	2	

2		2節 地震・津波と防災	・地震、津波の被害は、地域によってどのような違いがあり、どのような防災、減災の取り組みが行われているのか	3
		3節 火山災害と防災	・火山は、人々の生活にどのような恵みや災害をもたらし、共生のための取り組みはなにか ・気象災害は、場所によってどのような違いがあり、どのような取り組みや課題があるのか	3
		4節 気象災害と防災	・自然災害の被害を減らすためには、どのような取り組みが必要で、自然災害の被災地にはどのような支援が必要なのか	3
		5節 自然災害への備え	・生活圏が抱える課題を探求するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決への展望を見出していけばよいのか	3
		1節 生活圏の調査と地域の展望		1
第2章 生活圏の調査と地域の展望				

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとに、授業ノートを提出することとなります。
- ・単元に即した学習プリントを配布し、授業後に提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

日々のニュースに注意し、世界と日本の違いや関係性を理解するよう努めて欲しい。
自分の住んでいる地域の、自然環境に興味を持ち、その特徴を人間生活の関係を理解するとともに、そこで発生する自然災害に備える防災意識を高めて欲しい。

(担当：岡田雅章・花ヶ前盛仁)

教科(科目)	数学（数学Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	最新 数学Ⅰ（数研出版）				
副教材等	Study-Up ノート 数学Ⅰ（数研出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

三角形の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにします。また、統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようにします。そして、単元ごとに課題学習を行い、身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養っている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養っている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシート ・ワークブック ・定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（問題演習など） ・自習課題、ノート等の提出物 ・長期休業中の課題の提出状況 ・振り返りシートの記述の分析 ・定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度など） ・自習課題、ノート等の提出物、 ・長期休業中の課題の提出状況、 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4			1年次の復習	3	春休み課題
4 ～ 7	4章 図形と計量	三角比	鋭角の三角比 三角比の利用 三角比の相互関係 三角比の拡張 三角比が与えられたときの角 節末問題	3 3 4 4 2 3	ワークシート ワークブック 定期テスト 授業態度 振り返り
7 ～ 11		正弦定理・余弦定理	正弦定理 余弦定理 正弦定理・余弦定理の応用 三角形の面積 図形の計量 節末問題、章末問題	6 6 5 7 4	夏休み課題 ワークシート ワークブック 定期テスト
		課題研究	直接測ることのできない高さの測量	3	授業態度 振り返り
12 ～ 3	5章 データの分析	データの分析	データの整理 データの代表値 データの散らばり データの相関 相関係数 分割表、研究 仮説検定の考え方 章末問題	2 4 3 2 2 2 2	冬休み課題 ワークシート ワークブック 定期テスト 授業態度 振り返り
		課題学習	課題学習図から図の中から自分で選択し、取り組む	2	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・課題に対する小テストを行います。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。
- ・定期考査ごとにワークやノートを提出してもらいます。

8 担当者からの一言

授業中しっかりワークシートに取り組んだり、ノートを書いたりしましょう。問題をくり返し解くことで、力がつき、必ず解けるようになります。わからない問題はそのままにせず、周りの人に聞き、なぜこうなるのか、しっかり考えて取り組みましょう。主体的に取り組む、課題の提出期限を守ること。

(担当： 新井 真紀)

教科(科目)	理科（化学基礎）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(農業科)
使用教科書	実教出版「化学基礎」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する能力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

・本学が農業高校であり、専門性に繋がるコースがあることも踏まえ、

- ① 自然の基礎的な原理・法則を理解する力を養うとともに、科学技術の進歩と農業との関わりについて理解を深める。
- ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ③ 自然が日常生活と深く関わっていることを理解することに重点をおく。
- ④ 高校卒業後の進路先が多岐にわたっていることより、個々の進路目標に対応する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト・定期テストの分析 ・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察 ・実験レポートやプリント、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト・定期テストの分析 ・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察 ・実験レポートやプリント、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察 ・実験レポートやプリント、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」「B:おおむね満足できる」「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	序 物質と化学	物質とは何か 物質を分類する 変化を調べる 性質の違いで物質を見分ける 物質の変化を観察する	化学と人間生活との関わりについての観察・実験を通して、物質の化学的特徴を理解する。	2	
4	1章 物質の構成	1 節 物質の分類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動	物質の分離や精製の実験を行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身につけさせる。元素を確認する実験などを行い、単体・化合物について理解させる。	6	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
5	2章 物質の構成	1 原子の構造 2 イオンの生成 3 元素の周期表	原子の構造及び陽子・中性子・電子の性質を理解させる。元素の周期表及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関連を理解させる。	6	
5	3章 物質と化学結合	1 イオン結合とイオン結晶 2 イオン結合からなる物質	イオンの生成と電子配置と関連付けて理解させる。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解させる。	6	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
6	4章 物質と化学結合	1 共有結合と分子 2 分子間力と分子結晶 3 共有結合からなる物質	共有結合と電子配置と関連付けて理解させる。また、分子からなる物質の性質を理解させる。	6	
7	5章 物質と化学結合	1 金属結合と金属結晶 2 金属	金属の性質及び金属結合を理解させる。	6	
7	6章 物質と化学結合	1 結晶の分類 2 化学結合と身のまわりの物質	構成する粒子と結合の種類を理解させる。それぞれの化学結合と身のまわりの物質の性質を関連させて理解させる。	3	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
10	7章 物質と化学結合	1 原子量と分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式	原子量・分子量・式量・物質質量を理解させる。 溶液の濃度計算ができるようにする。 化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解させる。	12	
11	8章 物質と化学結合	1 酸と塩基 2 酸と塩基の分類 3 水素イオン濃度と pH 4 中和反応と塩	酸や塩基に関する実験を行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解させる。	12	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
1	9章 物質と化学結合	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元 4 酸化還元反応の応用	酸化と還元が電子の授受によることを理解させる。	9	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
3	10章 物質と化学結合	衣食住	科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。	2	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ プリント、ワーク、ノートの提出
- ・ 小テストの実施、実験レポートの提出

8 担当者からの一言

私たちの身の周りにはたくさんの科学現象があります。ふだん当たり前と感じていた現象が、実は法則があったり規則に従っていたりします。授業に集中することはもちろんですが、興味をもって学習に臨むことが何よりも大切です。板書をそのまま写すだけでなく、教科書を読み、自分でまとめてみましょう。インターネットや図書室(漫画や図鑑、専門書など)の利用もお勧めです。(担当:上村)

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(全コース)
使用教科書	第一学習社「高等学校 生物基礎 BIOLOGY」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する能力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 指導の重点

本学が農業高校であり、農業科として動物や植物に触れていくことも踏まえ、

- ①基本的な知識こととまらず、授業で扱う内容については生徒自らが観察や実験、資料などから、規則性や特徴を見いだして理解する能力を引き出していくことを目指す。
- ②また、現代の生命科学の進歩や環境問題などの発展的な内容も取り扱い、諸問題の探究の過程を通して科学的な観点に立って考えることのできる資質や能力を育成することを目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録方法など、基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しを持って観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト、定期テストの取り組み、理解の度合い ・授業中の発言や観察・実験への取り組みの様子 ・実験レポートやワークシート、提出物などの内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト・定期テストの取り組み、思考の度合い ・授業中の発言や観察・実験への取り組みの様子 ・実験レポートやワークシート、提出物などの内容 ・復習プリントの記述内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や観察・実験への取り組みの様子 ・実験レポートやワークシート、提出物などの内容 ・復習プリントの記述内容 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名		教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	はじめに		学習の進め方 顕微鏡観察	科学的な探究の流れを整理する。 光学顕微鏡の操作し、観察を行う。	3	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
4 5 6	1章 生物の特徴	第1節 生物の共通性	①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来	生物の共通性と起源の共有、系統と系統樹を理解させる。 原核生物と真核生物に見られる細胞構造と細胞小器官について理解させる。	8	
		第2節 生物とエネルギー	①生物とエネルギー ②代謝とATP ③代謝と酵素	生命活動におけるエネルギーの必要性と、ATPの構造とその役割について理解させる。 光合成と呼吸の概要や、代謝と酵素の働きを理解させる。	6	
6	2章 遺伝子とその働き	第1節 遺伝子の本体と構造	①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配	遺伝情報を担う物質であるDNAの構造や研究史、DNAの塩基の相補性と半保存的複製を理解させ、細胞周期の各時期にかかる時間を推定できるようにする。	6	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
7		第2節 遺伝情報とタンパク質	①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム	タンパク質の構造を理解し、DNAの塩基配列とアミノ酸配列との関係を見いださせる。転写と翻訳、遺伝暗号表の読み取りやゲノム、細胞の分化と遺伝子の発現について理解させる。	7	
9 10 11	3章 ヒトのからだの調節	第1節 情報の伝達と体内環境の維持	①恒常性と神経系 ②恒常性と内分泌系 ③体内環境を調節するしくみ ④血液凝固	ヒトの神経系と脳、自律神経系の働き、内分泌系による調節、フィードバックのしくみを理解させる。体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いださせる。血糖濃度調節と糖尿病、体温調節、血液凝固について理解させる。	9	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
		第2節 免疫	①生体防御 ②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	生体の物理的・化学的防御や、免疫での異物を排除する防御機構を理解させる。自然免疫と獲得免疫の特徴を比較し、二次応答のしくみとその特徴について理解する。免疫疾患(自己免疫疾患、アレルギー、免疫不全症)や、免疫を利用した医療(予防接種、血清療法、抗体医療)について理解させる。	10	
11 12	4章 植生と遷移	第1節 植生と遷移	①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ	植生とその特徴、環境との関係を学習し、遷移の要因を見いださせる。一次遷移と二次遷移について理解させる。	5	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
1		第2節 バイオーム	①遷移とバイオーム	植生の遷移とバイオームを学習し、世界・日本のバイオーム、垂直分布と水平分布について理解させる。	3	
1 2 3	5章 生態系とその保全	第1節 生態系と生物の多様性	①生態系の成り立ち ②生態系における生物どうしの関わり	生態系の概念について学習し、生態系を構成する非生物的環境と生物が密接に関わっていることを理解する。食物連鎖と食物網や種の多様性と生物間の関係性について理解させる。	6	プリント提出 授業態度 実験レポート 定期テスト
		第2節 生態系のバランスと保全	①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	生態系のバランスと人間活動による生物多様性への影響や、外来生物が生態系に及ぼす影響を学習し、生態系の保全の重要性を認識させる。	7	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ プリント、ワーク、ノートの提出
- ・ 小テストの実施、実験レポートの提出

8 担当者からの一言

生物学は私たちにとって非常に身近な学問です。私たちヒトという生物を含め、私たちの身の回りに見られるさまざまな生物がどのような特徴をもっているのかについて、身近な生物現象と関連付けながら学習していきましょう。日常生活のふとした瞬間に、「これ授業で勉強したな」と思ってもらえると嬉しいです。(担当:林)

教科(科目)	英語(英語コミュニケーションⅡ)	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	『VISTA English communication Ⅱ』(三省堂)				
副教材等	エースクラウン英和辞典、VISTAⅡ Workbook(三省堂)、『フレーズで英単語 3000』『フレーズで英単語 3000 WORKBOOKⅡ』(浜島書店)、Listening Platform 1 (いっずな書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する能力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をととして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をととして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 1年次での学習内容をふまえ、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をさらに伸ばす。
- ② 教科書の題材を通して、異文化を理解しようとする心や社会への関心、自身・自国への関心を高める。
- ③ 場面や目的に応じて、自分自身の考えや思いを適切に表現する能力を養う。
- ④ 英語学習に対する積極的な態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・提出物（ワークブック、ノート、課題等）の内容 ・小テスト（単語テスト） ・定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・提出物（ワークブック、ノート、課題等）の内容 ・小テスト（リスニング） ・定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・提出物（ワークブック、ノート、課題等）の内容 ・小テスト（単語テスト） ・定期テスト などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で、評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	Lesson1	World Dance Performance	○want 人 to～、how to doを理解する。 ・世界の様々な踊りについて学ぶ。	15	ワークシート 定期テスト 単語テスト
7	Lesson2	A piece of Cake	○疑問詞や if で始まる節を理解する。 ・慣用句の日英比較について学ぶ。	14	リスニングテスト 授業態度 ワークブック
8 9 10 11	Lesson3	Quokka	○使役動詞、知覚動詞を理解する。 ・オーストラリアのかわいい動物クオッカを通して生き物と自然環境について学ぶ。	12	ワークシート 定期テスト 単語テスト
12	Lesson4	Designing Stamps	○形式主語 it、形式目的語 it を理解する。 ・切手のデザイナーの仕事について理解する。 ・玉木氏の職業への意識と切手デザインを通した文化の紹介について考える。	12	リスニングテスト 授業態度 ワークブック
1 2 3	Lesson5	Mont-Saint-Michel	○現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形を理解する。 ・モン・サン・ミシエルの景観を守るための取り組みを考える。 ・世界遺産を取り巻く環境と歴史について学ぶ。	17	ワークシート 定期テスト 単語テスト リスニングテスト 授業態度 ワークブック

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ワークシート、ワークブックの提出。
- ・小テスト（単語テスト、リスニングテスト）の実施、発表（音読テスト、パフォーマンステスト）。
- ・長期休業中課題提出。

8 担当者からの一言

英語を通して、日常的な話題や身近な話題について、自分の考えを整理し、コミュニケーションを積極的に図りましょう。定期テスト、発表、小テスト、提出物、授業への取り組みを総合的に評価しますので、日頃からコツコツと取り組むことが大切になります。間違えを気にせずに、前向きに授業に取り組みましょう。

(担当：佐藤美穂子、高原貴美子)

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『現代高等保健体育ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 指導の重点

各種の運動の合理的な実践を通して、

- ① 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- ② 体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育てる。
- ③ 生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
- ④ 基本的生活習慣と社会のルール、マナーの遵守ができる生徒の育成に努め、その定着を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解していると同時に、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容確認 ・各種目における実技試験の実施 ・記録をデータ化し、記録の伸び率を比較 ・試合中の様子を ICT 機器で記録し、振り返りを行う。 ・体力を数値化し科学的に分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、グループ学習への取り組みの観察 ・グループノートやワークシートなどの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、グループ学習への取り組みの観察 ・グループノートやワークシートなどの内容の確認 ・自己評価や相互評価等の状況を分析などから、評価します。
	内容のまとめりとともに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)		時間	評価方法
4 ～ 5	体づくり運動	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・柔軟性を高める運動 ・持久力を高める運動 ・筋力を高める運動 ・調整力を高める運動		8	評価の観点の趣旨と 評価方法踏まえて、 各学習内容について それぞれ評価する。
5 ～ 9	選択①	・陸上競技	・短距離走、走り幅跳び	1つ選択	22	
		・球技ゴール型	・サッカー			
		・球技ベースボール型	・ソフトボール			
		・球技ネット型	・バレーボール			
9 10	陸上競技	・長距離走	・男子3km・4km ・女子2km・3km タイムトライアル		10	
10 ～ 3	選択②	・球技ゴール型	・バスケットボール	1つ選択	24	
		・球技ネット型	・バドミントン			
		・球技ネット型	・卓球			
		・武道	・柔道			
	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	・運動やスポーツの技術と技能 ・運動やスポーツの技能の上達過程 ・運動やスポーツの技能と体力の関係 ・運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方		6	・確認テスト ・学習ノート で評価する。

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・グループノートやワークシート等の提出があります。
- ・ケガなどの身体的理由により、運動が制限される生徒に対しては、レポート作成を指導します。

8 担当者からの一言

- ・運動が得意、不得意にかかわらず、体を動かすことの楽しさや心地よさを感じてください。
- ・仲間と共に運動することで、達成感や充実感を味わってください。
- ・年間を通じて自らの体力向上に努め、生涯にわたって健康を保持増進できる力を身につけましょう。

(担当： 古畑 豊和)

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	大修館書店 現代高等保健体育				
副教材等	大修館書店 現代高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をとおして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をとおして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。

(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- ① 健康の大切さや体の発育・発達などの基礎的・基本的な事項が理解できるようにする。
- ② 健康的なライフスタイルを確立する。
- ③ 深刻化する健康・安全に関する新たな課題等に対応する。
- ④ 心の健康の保持増進に関する理解を図る。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、タブレット教材の提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容確認 ・振り返りの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表やグループワークへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・タブレット教材の提出状況などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ～ 7	3単元 生涯を通じる健康	生涯の各段階における健康	・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康	11	評価の観点の趣旨と評価方法踏まえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。 定期テスト (知識の確認) ワークシート (記述の点検) 学習ノート (記述の確認) タブレット教材 (課題の解決) グループワーク、発表の様子 (行動の確認)
7	定期テスト			1	
8 ～ 12	4単元 健康を支える環境づくり	環境と健康	・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備	6	
		食品と健康	・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動	4	
12	定期テスト			1	
12 ～ 3		保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用	4	
		様々な保健活動や対策	・さまざまな保健活動や社会的対策	1	
		健康に関する環境づくりと社会参加	・健康に関する環境づくりと社会参加	2	
2	定期テスト			1	

計35時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期的に学習ノートを提出します。
- ・授業プリントやタブレット教材を提出します。

8 担当者からの一言

- ・現代社会における様々な健康課題に対して、自らの考えを持てるようにしましょう。
- ・授業で得た知識や課題解決の方法を実生活に役立てられる力を身につけてください。

(担当： 古畑 豊和)

教科(科目)	家庭（家庭総合）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	東京書籍 自立・共生・創造				
副教材等	東京書籍 （自立・共生・創造）学習ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する ①農業に関する専門的な知識や技術を身に付け、地域社会に貢献する力を育成します。 ②課題解決能力を養い、効率的かつ創造的に解決する力を育成します。 ③自ら学び、主体的、意欲的に取り組む態度を育成します。 ④農業や地域の課題を探索し続け、何事にも粘り強く挑戦する姿勢を育成します。 ⑤生命の大切さを認識し、他者を思いやる豊かな人間性を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う ①農業に関する体験的な学習をととして、基礎的・基盤的知識や技術の習得を行います。 ②農業の実験・実習をととして、主体的に取り組む地域貢献につながる学習を行います。 ③各教科との横断的な学びや地域社会と協働した学びにより、探究的な学びに取り組みます。 ④ICTを活用したスマート農業やGAP認証の取り組みによる学習を行います。 ⑤学科に関連する企業と連携し、農業及び地域理解を深めるための現場見学や実習を行います。

2 学習目標

生活を営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の人生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域および社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 指導の重点

生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭および福祉、衣生活、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能の習得を目指します。

生涯を見通して、家庭や地域および社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を育てます。

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したり、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践できることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭および福祉、衣生活、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけようとしている。	・自己の家庭生活について主体的に考え、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけようとしている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト・定期考査の分析 ・授業中の発言、実験・実習への取り組みの観察 ・実験・実習のレポートやワークシート、提出物の内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト・定期考査の分析 ・授業中の発言、実験・実習への取り組みの観察 ・実験・実習のレポートやワークシート、提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、実験・実習への取り組みの観察 ・実験・実習のレポートやワークシート、提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分に満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力をようする」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・家庭科の学び方 ・生活に生かそう	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	2	ワークシート評価 学習ノート提出 授業態度
	第1章 生涯を見通す	1. 人生を展望する 2. 目標を持って生きる	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解する。	3	ワークシート評価 授業態度
5	第2章 人生をつくる	1. 人生をつくる 2. 家族・家庭を見つめる 3. これからの家庭生活と社会	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。	12	ワークシート評価 学習ノート提出 授業態度 定期テスト
6	第7章 衣生活をつくる	1. 被服の役割 2. 被服を入手する 3. 被服を管理する 4. 製作する 5. 衣生活の文化と知恵 6. これからの衣生活	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。	26	レポート ワークシート評価 学習ノート提出 製作品 授業態度 定期テスト
7					
9					

10	第9章 経済生活を 営む	1. 情報の収集・比較と意思決定 2. 購入・支払いのルール 3. 消費者の権利と責任 4. 生涯の経済生活を見通す 5. 家計をマネジメントする 6. これからの経済生活	自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	15	レポート ワークシート評価 学習ノート提出 授業態度 定期テスト
1 2 3	第4章 超高齢社会 を共に生きる	1. 超高齢・大衆長寿社会の到来 2. 高齢者の心身の特徴 3. 高齢者の自立を支える 4. これからの超高齢社会	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	12	レポート ワークシート評価 学習ノート提出 授業態度 定期テスト

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・学習ノートの提出
- ・ワークシートの提出
- ・衣生活で製作する作品
- ・実験・実習のレポートの提出
- ・小テストの実施

8 担当者からの一言

身の回りの事柄に関心や課題意識を持ち、自分や家族の生活がよりよいものになるように、生活に必要な基礎的なことを理解し、実践できる技能を身につけましょう。
授業態度を重視します。欠席や遅刻、忘れ物をせず、望ましい態度で授業に臨んでください。
エコバッグや課題プリント、ファイル等の提出物は期日を厳守してください。(担当： 藤塚)